

相談室だより (みさき・くろさき 2008年7月)

担当：みさき病院 MSW 三宅

今回初めて、相談室だよりを作成することになりましたみさき病院 MSW 三宅です。
MSW として勤務して早いもので、1年半が経ちました。
今回の相談室だよりの内容は、皆さん MSW はどんな業務しているの？と思われる方も多いと思います。そこで、私の6月の業務内容（担当：外来、回復期川病棟）を御報告しようと思います。



～08年6月の業務内容（延べ件数）～

対応件数 新規対応 45 件、継続対応 202 件

方法 面接 88 件、電話 96 件、訪問 9 件、文書 55 件

対象 患者本人 16 件、家族 83 件、患者関係者 26 件、院内スタッフ 66 件、行政（包括含む）17 件、病院 18 件、施設

（ケアマネ含む）31 件

内容

【個別援助】

- ◆ 入院時（回復期リハ病棟）インテーク面接、認知症外来インテーク面接
- ◆ 受診相談、転院相談
- ◆ 退院調整、退院後の生活支援、IC への参加
- ◆ 医療費の相談
- ◆ 身障手帳の申請、装具・補装具の申請、介護保険の申請
- ◆ 患者の家族の問題等の対応

【個別援助外】（上記対応件数表記外の業務）

- ◆ 委員会、会議、研修、学習会（院内外）
- ◆ 院外連携（病院、施設との待機状況の確認など）、施設訪問
- ◆ 回診、カンファレンスへの参加
- ◆ 外来窓口相談
- ◆ 資料作成
- ◆ 介護保険主治医意見書・障害者自立支援主治医意見書業務
（主治医意見書作成補助、家族・居宅からの聞き取り、その他諸業務）

以上が6月の主な業務内容ですが、6月の特筆すべき内容でいえば、障害者自立支援の申請及びサービス導入までの援助がありました。先日も市の勉強会に参加して介護保険と障害者自立支援を利用する際の留意点などを学んできましたが、正直言って複雑なため頭を抱えてしまいます。 ややしや～ ややしや～

みなさんも退院援助の際は、頭を抱えることはありませんか？そんな時は、是非 MSW を活用していただけたらと思っております。

～ 制度活用のご紹介～

身体障害者手帳を持っている場合、介護保険と障害福祉（自立支援）どう活用をするの？

介護保険でいう1号被保険者（65歳以上）、2号被保険者（40歳以上の特定失病で健康保険の被保険者）は原則として介護保険の利用が優先です。

そのため、退院援助をされる際には、まず介護保険の確認や新規申請をお考えになると思います。

ですが、介護保険が優先できない場合があります。

それは、40歳以上65歳未満の特定疾病の方で、生活保護を受給している方は、障害福祉(自立支援)が介護保険よりも優先となります。

理由としては、生活保護の他法優先の原則があるからです。そのため、障害福祉の優先となります。

優先順位はありますが、介護保険のサービスで補えない場合、介護保険にないサービスを利用したい場合などは、障害福祉の利用ができますし、逆に障害福祉にないサービスを利用したい場合は介護保険の利用ができます。

そういった場合は、行政との交渉が必要ですので、MSW が戦ってきます。制度の詳細はいろいろありますが、ご不明な点はMSWまでご相談下さい。

反貧困全国キャラバン 2008～西日本ルート出発式・記念集会に参加しました

反貧困全国キャラバンとは・・・

これ以上の格差と貧困の広がりに対して、これまでバラバラに活動をしていた労働運動、社会保障運動などが、今こそ、人間らしい生活と労働を求めてつながりあう機会である。

今回は、「生活保護基準の切り下げ阻止」を獲得目標とし、全国キャラバンを通じて、各地でお互いの顔が見える「反貧困」のネットワークを築き、市民の力で「誰もが生き生きと暮らせる社会」をつくりあげる目的。2005年から3年連続「生活保護打ち切り」による餓死が発生した北九州を西日本ルートの出発地とした。

今回の出発式においては、

水島宏明さん(日本テレビ解説員、NNNドキュメントで、「ネットカフェ難民」を取りあげる)の講演
パレード・街頭宣伝
が主なものでした。

水島さんによる講演

水島さんは、自らを「貧困報道マン」と称され、日本テレビのプロデューサーとして活躍されている。その代表に「NNNドキュメント」があり、昨年取り組まれたネットカフェから見える貧困で「ネットカフェ難民」という言葉で一躍有名になられている。水島さんが強調されたことは、

- ・貧困は見えにくいもの
 - ・その見えにくい貧困が「ネットカフェ難民」のように現象として現れれば、もう手遅れの状態に近い
 - ・ホームレスの負のスパイラル
- <住居がなくなる> <仕事が見つからない> <日雇派遣・ワンコールワーカー> <住所設定困難>

- ・貧困には5つの排除がある(「もやい」の湯浅誠氏の言葉を借りて)

家族

教育

雇用

公的な福祉

最終的には自己否認「自分はどうなってもいい存在」

- ・日本の国としての貧困のとらえ方の間違い

欧州では、貧困の再発見を国が行っているが、日本はしていない。

例えば、イギリスでは貧困意識調査が実施されており、その設問に「クリスマスに家族にプレゼントを買える？」等があるんです。

改めて、日本において「貧困」はどういうものかを考える時代であると感じました。(緒方)